



## 先輩ママからのお便り

現在30歳。28歳で結婚し、すぐに第1回目の妊娠がわかりました。7週の時に急にお腹が痛くなり流産。3ヵ月後に第2回目の妊娠がわかりましたが、心拍を確認することなく繋留流産と診断され手術しました。次こそは、と3回目の妊娠を3ヵ月後にしたものの、前回と同じく10週まで待ってみても心拍が確認出来ず、手術を受けました。その後、友人の勧めで不育症外来を受診し、検査で抗リン脂質抗体症候群であることがわかりました。間もなくして第4回目の妊娠、入院治療をしてアスピリン+ヘパリン併用で第1子を無事出産しました。

主人や主人の両親に、心配してもらってはいたものの、結婚前にやっていたスポーツが悪かったとか、仕事をしているから良くないとか言われたことや、職場の人達に迷惑をかけてしまったことは辛かったです。

でも、抗リン脂質抗体症候群について主人に告白した時、一緒に泣いてくれたことや、こんな身体の私に「大丈夫。絶対うまくいく！」と励まし続けてくれたことは本当に感謝しています。

また、不育症について知っている友人が、とにかく専門のDrを受診してみよう！と勧めてくれて、そこから一気に自分の身体のことわかってきて、治療すれば流産する確率が下がる、とわかった時や、その治療に専念するために退職しようと思ったら、上司から「支援するから頑張れ」と仕事を辞めずに治療できたことはとても嬉しかったです。

毎日の注射は正直辛かったです。子どもの顔が見られた今となつては、それくらいのことほど～もないって思えます。頑張った人達には、Babyも精一杯頑張つて産まれてきてくれると思うので、先生や助産師さんを信じて頑張つて欲しいです。

## Q. 男の子か女の子か知りたいのですが。

私は、男の子でも女の子でもいいんですけど、主人もあ義母さんも聞いて来い、聞いて来いってやかましいんです。もらった写真から、どちらかわかりますか？

A. 性別を教えて欲しいと言われた時に限って、胎児が性別を確認しにくい向きに向いていたり、足を閉じていてうまく見えなかったり。

時間をかけて、よく見れば、男の子か女の子かわかることが多いのですが、見えにくいときは、「また、今度見ましょうね。」と言われることも多いと思います。

ごく稀にですが、生まれてみたら、聞いていたのと違った。なんてこともあります。女の子だと思ってベビー服も身の回りのものもピンクでそろえたのに・・・なんてことも。

産科医の中には、胎児の性別は教えない主義の先生もいます。でも、毎回、超音波検査を一緒に見ていると、中には自分で、わかってしまう方もあります。

← さて、男の子でしょうか？  
女の子でしょうか？

ヒント



## 第4回 不妊・不育とこころの相談室 出張相談 in 新見

2008年2月16日

雪に備えて、県の健康対策課からスノータイヤの車を留意していただき、おまけに運転もしていただいて、相談員とともに、岡山県不妊専門相談センターを出発しました。

案の定、途中から雪も降り出しましたが、大きな支障もなく、新見市保健福祉センターに到着しました。

個別相談を希望される方、本などの資料を読まれる方、また、リラクゼーションコーナーで、ハンドマッサージやアロマ体験をされる方、ハーブ・ティーを飲まれる方などが訪れました。

残念ながら雪のせいもあり、相談者が少なかったのですが、地域の保健師さん達と話もでき、今後の出張相談に関するアイデアも得られました。

来年度も出張相談がますます意義のあるものになることを誓う私達でした。



岡山県不妊専門相談センター  
雪の新見での相談室  
2008年2月16日（土）

あなたのお便りをお待ちしています。

ママたま通信のバックナンバーをご希望の方はご連絡下さい。

会員登録(無料)はインターネットでも可能です。  
会員には、ママたま通信をお届けします。  
お問合せは右記まで。

2008年2月号第8号 ママたま通信  
編集/印刷/発行 岡山県不妊専門相談センター  
「不妊・不育とこころの相談室」  
〒700-8558 岡山市鹿田町2-5-1  
Phone&Fax 086-235-6542  
E-Mail funin@cc.okayama-u.ac.jp  
URL <http://www.okayama-u.ac.jp/user/hos/funin/index1.html>